

海洋教育のスタート！

大牟田市教育委員会と東京大学が協定を締結 ～海洋教育推進拠点としての連携に関する協定～



▲協定書の披露（左から）
日置光久 東京大学特任教授
中尾昌弘 大牟田市長
安田昌則 大牟田市教育長

10月27日、大牟田市教育委員会と東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの間で、海洋教育拠点としての連携に関する協定が締結されました。大牟田市は、世界的にも干満の差が大きく独自の生物相を持つことで有名な有明海に面しており、様々な恩恵を受けています。また、世界遺産「三池港」は、明治期の産業革命を支えた価値ある港です。

今後、これらの地域素材を教材化するとともに、海洋教育のカリキュラム開発を行います。また、海洋教育を推進していくために、「みなと小学校」「天領小学校」「天の原小学校」の3校をモデル校として研究をすすめ、その成果が、市内の各学校に紹介されます。さらに、大牟田市海洋教育推進協議会が設置され、大牟田市における海洋教育の研究及び実践に関することやモデル校の研究推進に関すること等が協議されます。

これらの成果は、全国の海洋教育促進拠点や実践校との連携を図り、海洋教育の充実のために、広く発信され、ユネスコスクールのネットワークを生かした実践も期待されています。大牟田の子どもたちが有明海に目を向け、郷土を誇りに思う心を育て、大牟田の特色を生かした海洋教育を全国に発信していきたいものです。

連携協定締結式記念講演

新たな教育の可能性を拓く
大牟田の海洋教育への期待

協定締結を記念して、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員の及川幸彦氏による記念講演が行われました。



▲講演：及川主幹研究員

講演では、最初に海洋教育の理念と必要性および、海洋教育の定義等が紹介されました。そして、海洋教育の領域を12のアプローチとともに示していただきました。

次に、ユネスコスクールの文脈における海洋教育の展開や大牟田の地域遺産を生かした海洋教育の可能性について提起されました。

事例として、気仙沼市立面瀬小学校の海洋未来都市プロジェクト&こども海洋フォーラムが紹介され、今後の大牟田の実践へのヒントをいただきました。これまでの大牟田のESDや世界遺産学習で取り組んできたことをふまえ、大牟田の海洋教育への期待を熱いメッセージとともに語っていただいた講演会でした。これからの研究を進めていく上での、大きな示唆をいただきました。今後の大牟田の実践に生かしていきたいものです。

海洋教育
連携協定
締結特集号

海洋教育って何？

海洋教育は、「海に親しむ」ことから始まり、「海を知る」ことで海への関心を高め、さらに海と人との共生のために「海を利用」しながら「海を守る」ことの大切さを学ぶものです。また、次のような人材の育成を目指しています。

- ①海洋と人間の関係について理解を深めた人材
- ②海洋環境の保全を図る人材
- ③国際的な理解に立ち、平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材